



野鳥たちに、すこしづつ、でも確実に、あたらしい季節がおとずれようとしています。  
ある鳥は、もう北へ帰りはじめ、ある鳥はすみかを移しはじめました。  
このとき、おおほは群れになって移動します。  
なかでも、海や湖沼や、ひろい平原などで暮らしていた大型の鳥たちが、  
少なくなっていくのは、ちょっとさみしい気持になりますね。  
彼らの越冬をあたたかく見守っていた人びとは、  
やがてふたたび元気な姿を見せてくれることを願い、ひとときの別れを告げます。  
それは永遠のサヨナラではありません。『また来いよ……』なのです。

まいとし、クナギ類が渡来する全国8ヶ所以上の  
湖沼や川、ナガツバナなどの渡来地、鹿児島  
県出水と山口県八代の平原地、そしてクナギの  
唯一の繁殖地である北海道東部の大沼原。それ  
ぞの土地の人たちは、春とともに彼らが飛び去る  
を見送るながら、いつづけ「いなはもだた、こへ戻  
べ来てくれるだろか」とうやうやしくおでこです。  
この人たちも、明治時代になる前の日本では普  
通に見られた大型鳥類であり、キヤウトリ  
と同じ運命をたどっていくのではないか……という  
不安感なのも知れません。それだけに、彼らが  
姿をおわんとしたときのように、大きくて、人びとは  
ふたたび、それこそ「風邪を引くまもなく」いた  
たちのために懸念はいります。残された大型鳥類が  
こうして日本に生息しているのは、長い年月わた  
るその土地の多くの人の友愛の心に支えられた、  
積極的・具体的な保護活動によつてです。そこに  
しか来ない鳥たち——これはつまり、他の場所で  
は暮らせなくなってしまったからで、彼らの未来は、  
自然に対する日本人などならぬ方をしていくにか  
かっているといつてよい。美しいはずの日本の自然  
の中での鳥たちが、親から子、子から孫へと受け  
継がれ、それが大きな輪へひろがっていくことを私  
たちは願うのです。そこにしか来ない——そこ  
とはまず、日本のすべてで見つけてほしいと思います。  
『また、来いよ。こんどはもっといろんなところへ…』

トリヒト・友だち 豊かな自然

財團 法人 日本鳥類保護連盟  
サントリ一株式会社

●この廣告は、財團法人日本鳥類保護連盟の監修を得て、  
サントリ一株式会社がシナジーとして制作しています。

トリからのメッセージ ⑨